



平成 16 年 3 月 26 日

青森県教育庁文化財保護課

三内丸山遺跡対策室

〒030-8540 青森市新町 2 丁目 3-1
TEL (017) 734-9924
FAX (017) 734-8280

三内丸山遺跡対策室 分室

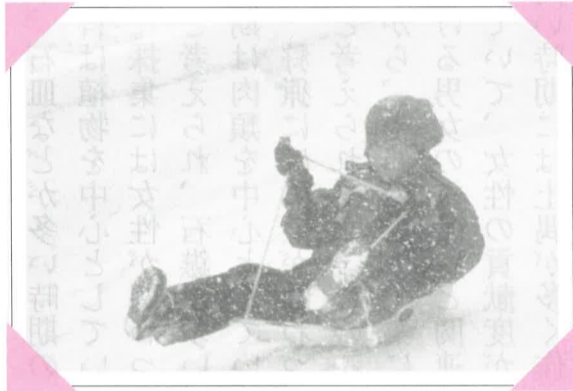
〒038-0031 青森市三内字丸山293
TEL (017) 781-6078
FAX (017) 781-6103

三内丸山通信

雪ランド2004スナップ集



たくさんの方が訪れました



楽しい! 雪のすべり台

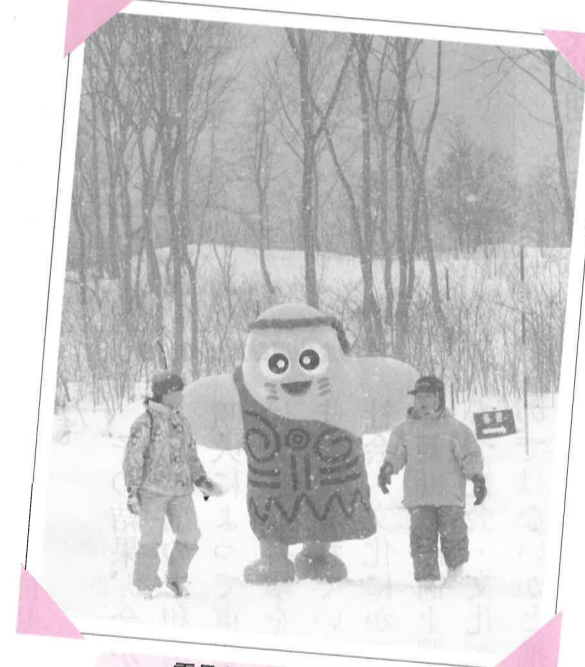
2月7日・8日の両日、「雪ランド2004」が開催され、たくさんの方々連れが遺跡を訪れました。

雪ランド2004 三内丸山遺跡



冬も楽しかった!!

会場には、雪でつくった大型すべり台やクイズラリーのコースが用意されたほか、「餅つき」「ふるまい鍋」のサーブスや、「縄文クッキーづくり」「土器復元作業」などの体験も行われました。



雪景色の中のさんまる

多くの人たちに冬の遺跡を訪れてもらうために行っているこのイベントに、今年は二日間であらゆる約七千人の人数がありました。すべり台や、ふるまい鍋のコーナーには順番を待つ長い列が続いていました。子どもたちは、人気の遺跡マスケットキャラクター「さんまる」と記念撮影をしたり、バケツとスコップで「ミニかまくら」を作るなど、一日中元気に雪の三内丸山遺跡を楽しみました。

夕方には、ミニかまくらにろうそくの火が点され、ほのかな灯が大型掘立柱建物(六本柱)を取り囲み、ゆれる炎が静かに瞬いていました。



土器の復元に熱中



ミニかまくらを作るぞ



もちつきでは大型住居いっぱいの方が集まりました



遺跡のご案内 ~4月から開園時間を延長します~

- 開園時間
午前9時~午後7時
(入場は終了時間の30分前まで)
ただし、遺跡内展示室・覆屋は6時まで
<4月1日~10月31日>
- 交通手段
青森市営バス
JR青森駅から「運転免許センター行き」
三内丸山遺跡前で下車

- ボランティアガイドの定時案内
1回目は9時15分から
その後は10時から1時間おき
(4月25日から5月5日・
7月24日から8月15日は30分おき)
最終は16時から
<4月1日~9月30日>

ガイド・体験工房のお問い合わせ・お申し込みは
縄文時遊館内 三内丸山応援隊
TEL (017) 766-8282



特別研究

成果まとまる

平成15年度の特別研究推進事業の研究成果がまとまりました。これは公募による三内丸山遺跡や縄文文化に関する研究で、今年度は6つの研究が行われました。このうちのいくつかを紹介します。

土偶から見た三内丸山遺跡

羽生淳子氏（カリフォルニア大学バークレー校）は三内丸山遺跡出土の土偶を時期別に分け、石器の組み合わせや住居数などの対



遺跡でのサンプル採取のようす

応関係を調べました。その結果、土偶の数と石器の組み合わせや住居数には関連があることがわかりました。

石皿や磨石が多い時期には土偶が多く、石鏃が多い時期には土偶は減少します。石皿などが多い時期の食料は植物を中心としていて、採集には女性関わったと考えられ、石鏃が多い時期は肉類を中心としていて、狩猟には男性関わったと考えられます。このことから、土偶の数は生業における男女の貢献度と関連していて、女性の貢献度が高い時期には土偶が多く作られたと推測されています。

三内丸山遺跡の土器を作る粘土の研究

松本建速氏（東京学芸大学）は三内丸山遺跡の土器を作る粘土を分析しました。円筒下層式と呼ばれる



三内丸山遺跡出土の土偶

縄文時代前期の土器には繊維が混ざらされていて、中期の円筒上層式と呼ばれる土器には繊維は混ざっていません。

分析の結果、この2種類の土器には同じ粘土が使われていて、三内丸山遺跡で土器作りが始まった頃から終わりまで使われ続けたことがわかりました。繊維を混ぜるのは粘土による使い分けではなく、当時の流行だったのではないかと推測されています。

クリからトチノキへー三内丸山遺跡の生態系

辻誠一郎氏（国立歴史民俗博物館）を中心としたグループは円筒土器文化の始まり・終わりとして生態系の関係を探るため、遺跡の土層と土器の検討のほか、花粉や種子の分析などの自然科

学的分析も併せて行いました。

その結果、今から約6000年前の十和田火山の大噴火によって東北地方北部は大きな打撃を受け、それまで営まれていた地域的な社会・文化にかわって、広い範囲に円筒土器を共通にもつ社会・文化が発生したのではないかと推測しています。また、三内丸山遺跡では、集落に人が住み始めるとクリ林が急激に増えましたが、縄文時代中期後半になるとトチノキが多くなり、これまでのクリ林を維持管理するシステムが崩壊した可能性が推測されています。



遺跡報告会のようす

このほかに、稲野裕介氏（北上市立埋蔵文化財センター）による岩偶の研究や小林謙一氏（総合研究大学院大学）による年代測定に

関する研究、西田泰民氏（新潟県立歴史博物館）を中心とするグループによる土器の製作技法の研究が行われました。

成果は遺跡報告会で報告

以上の成果は3月14日に青森県総合社会教育センターで行われた三内丸山遺跡

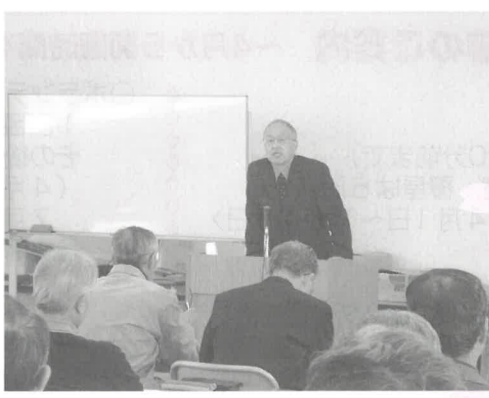
春に向けて

ボランティアガイド研修

三内丸山応援隊のボランティアガイドの研修が始まりました。初回の1月31日には文化庁の岡田康博氏による三内丸山遺跡の整備と活用について、国立歴史民俗博物館の西本豊弘氏による炭素14年代測定についての講義を受けました。応援隊のみなさんは約2ヶ月に



熱心に講義を聴く応援隊のみなさん



県埋蔵文化財調査センター福田友之氏による講義

わたって、三内丸山遺跡対策室の職員や外部講師などによる、三内丸山遺跡や縄文時代についての研修を受け、ガイドにより一層のミガキをかけます。応援隊には現在約100人が登録していて、春には新たに9人がデビューすることになっています。

報告会で発表されました。参加者は最新の研究成果に熱心に聞き入っていました。報告会ではこのほかに、平成15年度の発掘調査と日中共同調査・興隆溝遺跡の発掘調査の報告も行われました。なお、特別研究の成果の概要については公式ホームページでも知ることができます。